

令和2年（2020年）4月7日

## 令和2年度長野県蘇南高等学校 入学式 式辞

### 【はじめに】

木曾谷にも桜やミツバツツジが咲き始め、うららかな陽気のなかに、いまだ純白の木曾駒ヶ岳と新緑の南木曾岳がそびえたつ、美しい季節を迎えています。

記録的に温暖な冬を経験し、新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックに直面する私たちですが、本日、ここに令和2年度の長野県蘇南高等学校入学式を挙行できることとなりました。

晴れて入学を許可されて宣誓をしてくださった70名の新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます。心から皆さんを歓迎します。

### 【本校は「開拓者精神」を目指す】

私たちの蘇南高等学校は、太平洋戦争の傷跡がまだ深く残っている戦後まもなくの時代に、この地域の若者が高校で学ぶことができるようにと、地域の大人たちが力を合わせて設立した高校で、今年で創立67年を迎えます。南木曾駅から木曾川を渡り、しばらく坂道を登る、この校舎のある場所は、深い谷のなかでも例外的な日当たりの良い場所で、戦争中に人々が食糧増産のために莫大な労力をかけて開拓した土地でした。つまり、当時の人々は、村の財政のかなりの金額を高校設立に注ぎ、自分たちの食糧を生み出す大切な土地までも高校に渡しました。なぜでしょうか。

それは、未来に、この土地で“高校生が笑顔で学ぶ姿”を、夢見たからです。

今はまだ見えない未来に、自分が大切だと思う人（自分自身も含みます）がどうしたら幸せになれるかを想像して、今の自分が懸命に努力すること…これを「開拓者精神」と言います。本校が最も大切にしている理念が、この「開拓者精神」です。これは、私たちの高校を創ってくれた人々の思いを、ずっと受け継いできたものです。

ちなみに、「蘇南」とは木曾や木曾川の南部を意味する言葉です。「蘇」は、昔は美しい麻布とか真っ白なミルクを意味したと言われ、「木曾」のソを昔は「蘇」の字をあてていました。「どんな苦難があっても蘇る」というときの「蘇」でもありますね。蘇南高校という名前には、高校が立地する南木曾町はもちろんのこと、大桑村、岐阜県中津川市、そして木曾川の上流にあたる上松町・木曾町・王滝村・木祖村など、この木曾川の恵みとともに暮らす人々の「みんなの学校」という思いがこめられています。

### 【本校は「読書（よみかき）」を目指す】

皆さん、何気ない名前に人々の思いを「読む」ことができるということが、わかりますか。

私たちの蘇南高等学校の住所は、木曾郡南木曾町読書 2937-45 番地です。読書（よみかき）とは、南木曾町ができるより前に、ここにあった村の名前で、明治維新の近代化のなかで、それまでの与川（よがわ）村・三留野（みどの）村・柿其（かきぞれ）村の三つの村が合併して「読書（よみかき）村」ができました。

三つの村の頭の文字を組み合わせ、しかもそこに自分たちが大切にしたいことの意味をこめたのです。この名前のアイデアは、当時の学校の先生が考えたのだそうです。「これからの世（のなか）は学問がなければいけない。読書（よみかき）こそ文化を開く道である。」と、その先生は訴えていたと言います。そして読書小学校の子どもたちは、名前に負けない人間になろうと一生懸命学んだと言います。

この話を聞くとすぐに、「誰だって、読んで書くくらいできる。」「当時の貧しい農民たちは、よほど勉強ができなかったんだろう。」という声が聞こえてきそうです。でも、本当にそうでしょうか。皆さんに、聞きます。

皆さんは、自分がどのように生きれば、生きがいを持って幸せになれるか、“未来の自分”を「読んで」、「今の自分」を生きることができますか？

自分が大切だと思う人がどうしたら幸せになれるか、“未来の人々”を「読んで」、「今の自分」がすべきことを努力できますか？

新型コロナウイルスの解決策、地球温暖化の防止策、この地域の観光・工業の発展する道について、とても苦しい今と未来を「読んで」、自分のこうだと思う考えを「書く」ことができますか？

クラスのなかにいじめられて震えている友人の「いのち」の哀しみを無視しないでしっかり「読み取り」、その友人のために自分はこう生きるという決意を、心の中に「書く」ことができますか？ そうして培った自分の優しさを、自分にとって“世界で一番大切な人”の心を「読み」、その人の心に“自分の一番大切な思い”を「書く」ことに、つなげられますか？

人間のいとなみのなかで最も大切なのが、しっかり「読み」「書く」こと！

そのなかから少しでも未来を「読める」ようになったら、それが「開拓者精神」です！

こうしたことを身につけるために、本校の総合学科の授業や行事、部活動があるのです。このことを入学する皆さんに、最初に伝えたいと思います。

### 【保護者の皆様への御祝】

さて、保護者の皆様、お子様のご入学に心からお祝いを申し上げます。私たちは、精一杯、教育という営みを担っていく覚悟です。どうかこれからの三年間、私たち蘇南高校の教職員と手を携えながら、お子様の高校生活を支えてくださるよう、お願いいたします。

保護者の皆様にも同じような質問をすることをお許しください。

皆さんは、我が子がうわべの表情の奥で本当は何に悩み、何に傷ついているかを「読みとり」、我が子が本当にほしがっている言葉を「書く」ことができますか？

子育てにおいても「読み、書く」ことの難しさ、大切さは、同じであると思われまます。だからこそ、私たちと一緒に「読んで、書いて」いきましょう。

### 【おわりに～感染症の危機に直面している今を考える】

最後に、新型コロナウイルス感染症の危機に直面している今をどう考えていくかについて、私の考えをお話しします。今の私たちは、ひとつの道を選ぶと、新たな危機がおこるという状況のなかで生きています。皆さんのことと言えば、皆さんの健康を守るために学校を再び一斉休業をするならば、そのことによって皆さんは学業・生徒会・部活動において自分が未来に向かって成長する大切な機会を失ってしまい、別の意味で「傷ついてしまう」こととなります。

全世界の人々がウイルスの封じ込めに奮闘しているわけですが、残念ながらこの流行は、しばらく続くと予想せざるを得ません。そうだとすれば、私たちは物事の考え方を「転換」していく必要があります。

私たちの身近で大流行がまだ起こっていないのならば、最大限の感染防止の努力をしながら、“自分の「日常生活」を維持していく” 生き方への転換です。そしてその「日常生活」のなか

で大流行に備えていくのです。「日常生活」とは、繰り返しますが、世界のさまざまなことを「読み」「書く」学びです。感染症の大流行に負けない方法を、是非、「読み」「書いて」いこう。  
「蘇南高校は負けない」…このことを皆さんに伝えます。

以上、入学式にあたり、私の思いを述べました。  
では、蘇南高等学校での高校生活を始めましょう！

令和2年（2020年）4月7日

長野県蘇南高等学校長 小川幸司